



広報

まつやま

主な内容

- 特集 国民健康保険……………4・5面
- 総合窓口センター利用時間拡大……………3面
- 市民ガイド……………7~9面
- 愛媛FCマッチシティ松山市の日……………10面

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX 934-2578 HP <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

市勢 平成23年2月1日現在推計(前月比) ●面積:429.04km² ●人口:516,406人(-164) ●男:241,607人 ●女:274,799人 ●世帯数:228,225世帯(-55) ●1世帯の平均:2.26人 ●人口密度:1,204人/km²

友人と一緒に走りたいと思
い、参加しました。途中で足
がつかないが、家族や沿道
の声援が力になり、目標タイ
ムを上回る3時間台でゴール
できました。



村上 恵洋さん
(保免中三丁目)

家族の声援が力に!



福島 沙希さん
(北条南中2年)

前回大会のボランティアが
楽しく、今回もスタッフで参
加しました。応援したら「あ
りがとう」と言われ少し照れ
ました。いつかは走る側で参
加したいです。

ボランティア楽しくて



スポーツの感動を市民とともに!!



折り返し付近の北条では
だんじりでランナーを励ます



「いざ堀之内を目指して」。第49回愛媛マラソンは、2月6日、県庁前をスタート。号砲が5070の魂を揺さぶり、6時間の走りの協奏曲が始まりました。「頑張れ」の声で大会に参加する応援者。疲労と戦いながらも、声援に時折り笑顔をのぞかせるランナー。市民マラソンとなった「愛媛マラソン」の楽しさの証です。5070人のランナーは立春の城北・北条地域を駆け抜け、4588人が完走の感動を味わいました。今年も、ランナーと応援者そしてスタッフがともにつくる42・195キロのドラマは、スポーツの素晴らしさを市民に伝えました。

第49回 愛媛マラソン 5070人が 走りの協奏曲

保存してください。ここがまた お役に立ちます

応援クリーンアップ大作戦



袋を手にごみを拾う参加者

「ランナーと応援者の感動の舞台をきれいにしたい」。コースとなる堀之内周辺と平和通りの清掃活動に1月29日、市民約100人が参加し、愛媛マラソンの応援に一役買いました。

お問い合わせは、環境事業推進課
☎948-6434・☎974-4024へ

お問い合わせは、愛媛マラソン実行委員会
☎915-8460・☎915-2388・HP <http://ehimemarathon.jp/>へ

読者プレゼント



君原健二さんのサイン色紙を抽選で3人にプレゼント

応募先 〒790-8571 広報課「君原健二プレゼント」係
はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙への意見を書いて、3月15日(必着)までにお送りください。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

今でもフルマラソンを走る理由は、わたしが優勝した第70回ボストンマラソン大会から、5年後の大会に優勝者が招待されるのですが、その年が5年後です。その大会で完走するため、年に1回か2回、フルマラソンを走っています。

市民ランナーにアドバイス
競技者も市民ランナーも、自分の力を発揮することが大事です。他人につられないように、冷静に自分を見つめて、マイペースで走ることを心掛けてください。

松山市民へのメッセージ
笑顔で走ってほしいですね。笑顔というのは自分も気持ちよくなり、見ている人にもいいメッセージを送ります。励みや勇気、希望、人生への前向きな姿勢が出てきて、市民の皆さんが一層元気になることを期待しています。

笑顔で走れば みんなが元気に

マラソン競技の魅力は一生懸命努力した成果が記録に出るところにやりがいを感じます。自分の体がランナーという1つの作品のように思えて、作品を作る喜びを毎日の練習の中で感じ、一層練習に励みました。

愛媛マラソンにゲストランナーとして参加のため本市を訪れた君原健二さんにお聞きしました。

松山市の印象は
父親が旧北条市出身なので、松山には何度も来ています。道後温泉にも入りましたが、風情があつていいまちですね。

マラソンを始めたきっかけは
子どものころ走るのには得意ではなく、特に興味もなかったのですが、中学2年生のとき友人から誘われて走ったのがきっかけです。それから55年の間に16万キロ、地球4周分を走っていました。

こんにちは松山 メキシコ五輪 銀メダリスト 君原 健二さん



1941年生まれ。福岡県出身。66年ボストンマラソン優勝、68年メキシコオリンピックマラソン銀メダル、72年ミュンヘンオリンピックマラソン5位入賞。フルマラソンに50回以上参加し、途中棄権はなし。現在、北九州市立大学特任教授(非常勤)。